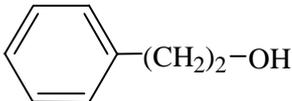


既存化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	99 - 18	官報公示 整理番号	3 - 1032	CAS 番号	60 - 12 - 8
名 称	フェネチルアルコール 別名： -フェニルエチル アルコール エタノール-2-フェニ ル		構 造 式		
分 子 式	C ₈ H ₁₀ O		分 子 量	122.16	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 98%以上 不純物 : 不明 添加剤又は安定剤: 無添加					
物理・化学的性状データ 外 観: 無色液体 融 点: -26 ²⁾ 沸 点: 217.5-218.5 ²⁾ 引 火 点: 96 (c.c.) ³⁾ 発 火 点: 文献なし 爆発限界: 文献なし 比 重: d ₄ ²⁰ 1.0202 ²⁾ 蒸気密度: 4.21(空気 = 1) 蒸 気 圧: 80 Pa(0.6 mmHg)(20 ⁴⁾) 分配係数: log Pow ; 1.38(実測値) ⁴⁾ 、1.45(計算値) 加水分解性: 加水分解を受けやすい化学結合なし 解離定数: 解離基なし スペクトル: 主要マススペクトルフラグメント m/z 91(基準ピーク, 1.0)、92(0.56)、122(0.24)、65(0.15) ⁵⁾ 吸脱着性: 土壌吸着係数 K _{oc} = 29 ³⁾ 粒度分布: 該当せず 溶 解 性: フェネチルアルコール/水 ; 20 g/l (20 ⁴⁾) アルコール、エーテル、ベンゼンなどの有機溶媒に可溶。 換算係数: 1 ppm = 5.08 mg/m ³ (気体, 20 ⁴⁾) 1 mg/m ³ = 0.197 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

本物質はヒトで眼、皮膚に対する刺激性が報告され、実験動物でも眼、皮膚への刺激性が報告されている。実験動物では経口投与により運動性の低下、昏睡、胃、肝臓、腎臓への影響がみられ、また、吸入暴露では傾眠、貧血、体温低下がみられている。本物質は経皮吸収性が高く、経皮投与の実験で死亡した例がある。変異原性試験は陰性と報告されている。発がん性についてはヒト及び実験動物で報告がない。生殖・発生毒性試験ではラットにおいて、経口投与で小肢、眼瞼開存、二分脊椎、小眼、水頭症等の奇形がみられ、経皮投与で臓器、筋・骨格系の奇形がみられている。

本物質は環境中に放出された場合、大気中でのOHラジカルとの反応による半減期は約1ヵ月と計算される。水圏では生分解される。水圏環境生物に対する急性毒性は弱い。

2) 指摘事項

- (1) ヒトで眼、皮膚に対する刺激性と感作性が報告されている。
- (2) 経皮吸収性が高く、実験動物で死亡例がある。
- (3) ラットにおいて、経口投与及び経皮投与による奇形の発生がみられる。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(1999).
- 2) 有機合成化学協会編, 有機化学物辞典, 講談社(1985).
- 3) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S.National Library Medicine(1998).
- 4) Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd. Ed., Van Nostrand Reinhold Co.(1996).
- 5) NIST Library of 54K Compounds.